

命を守る!

風水害編

# 大雨 その時にどうする？

## 風水害から身を守るために

大雨

平時

気象情報・  
空の変化に  
注意



危険箇所の  
確認



避難先・  
ルートの確認



非常持出品の  
確認



雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動を

川・用水路に  
近づかない



窓や雨戸、  
ベランダなど  
の点検



不要な外出は  
控える



警報

自治体の  
〈避難の呼びかけ〉  
に注意!



避難の呼びかけが  
なくても必要に応じて  
早めに避難



土のうや止水板の  
準備



危険  
警報

令和8年出水期から  
運用開始予定

特別警報が出ていなくても早め早めの行動を

〈特別警報〉に  
注意!



ただちに  
命を守る行動を!



自宅外避難の  
必要性を冷静に  
判断する



特別  
警報

避難所へ

家の中の安全な場所へ

状況によって避難の行動が異なります。

日ごろから、災害から身を守るための行動を考えておきましょう。

# 避難する時

## いつ避難する？

※1 警戒レベル	<b>警戒レベル3</b> 危険な場所から高齢者などは避難	<b>警戒レベル4</b> 危険な場所から全員避難	(警戒レベル4までに必ず避難！)	<b>警戒レベル5</b> 命の危険 直ちに安全確保!
※2 避難情報	<b>高齢者等避難</b>	<b>避難指示</b>		<b>緊急安全確保</b>
とるべき 行動	● 高齢者等は危険な場所から避難する。 高齢者等以外の人も必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。	● 危険な場所から全員避難(立退き避難又は屋内安全確保)する。		● 指定緊急避難場所等への立退き避難することがかえって危険である場合、緊急安全確保する。

※警戒レベルとは、災害発生のおそれの高まりに応じて5段階に分類した「居住者等がとるべき行動」と、その「行動を促す情報」(避難情報等:市町村が発令する避難情報と気象庁が発表する注意報等)とを関連付けるものです。

## どこに避難する？

外へ出る方が危険な場合や、差し迫った身の危険からただちに避難する場合、無理をせず自宅の2階や近隣の高い建物、高台に避難することが適切な場合もあります。集中豪雨など突発的な豪雨時に、まず身の安全を図れる場所はどこになるかを考えてください。

<b>指定避難所 指定緊急避難場所</b>	<b>近隣の高い建物等への移動や、建物内の安全な場所での待機(垂直避難)</b>		
 学校など	 高台など	 ビルの屋上	 建物内の高いところ

## 安全に避難するための7か条

1. 避難ルートは浸水や土砂災害の危険を避けて

2. 歩ける水の深さは50cm程度まで



3. 水中のマンホールや溝にご用心



4. 切れた電線には近づかない



5. 火の元の確認、戸締まりを忘れずに



6. 長靴はやめて、履き慣れた底の厚い靴



7. 早めの避難を心がけて

## 水害の恐れがある時

雨が降りだす

強くなると...

### 内水はん濫

内水はん濫は、降った雨が排水できなくなって地域内にたまってしまうものです。内水はん濫だけであれば、2階建てで自宅にとどまれる場合もありますが、周辺より低い地域などでは深く浸水する可能性もあります。また、起伏に富んだ地域では、あふれた水が川のように流れ、危険となる場所も出てきます。

危険な行動を避ける

降り続く...

### 中小河川はん濫

中小河川のはん濫といっても、地域によっては、2階まで浸水したり、堤防が決壊した近辺では、激流が押し寄せることもあり、命が危険にさらされる可能性があります。また、居住地域で降っている雨が弱まったとしても、河川の上流で降った雨によって、時間がたってからはん濫する可能性もあります。

避難するタイミングに注意する

さらに降り続く...

### 矢作川はん濫

矢作川のような大河川の堤防が決壊して大はん濫するという状況は、なかなか実感がわかないものです。しかし、万が一そのような事態となった場合、市内の広範囲で、多くの住民の命が危険にさらされるほど深刻な浸水被害が発生する可能性があります。市は矢作川のはん濫が見込まれる場合には、早い段階で避難の呼びかけを実施し、早めの避難を促します。

避難するタイミングに注意する